

高田町の戊辰戦争 9/18高田が長州藩らに放火される

九月九日

佐川官兵衛隊、牛、飯窮スル事ナシ。略く小野邑ノ嶮道ヲ超テ大内邑へ先行シ敵ノ虚ヲウガフベキ旨令アリケレバ略く丑ミツ(二時)頃大内村へ着スル。『辰之日記草稿』

この日、赤留村の西兵二百人ほど、吶喊(とっかん・大声で叫ぶ)して高田を襲う。会々東兵の高田に在る者、沼沢出雲隊その他合わせて約、六、七十人に過ぎず。銃をとる者半に過ぎず各刀槍をもつてむかえ戦う。略く西兵敗走して、赤留村を経て中の山に退き、所々に篝火を焚いて守る。東兵、追撃して赤留村に至り守りを置いて防備を厳にす。『会津戊辰戦史』

九月十日

九月十日同十一日には、又々会津方佐川官兵衛様、山崎小助様(倉村)大勢でお出でになり候所、御評定の上、所々へ御手分にて(田島へ)御出張成候なり。『大略会津降伏軍記録』
十日、同所(田島)宿陣。『会津大砲隊戊辰戦史』

九月十一日

時に城中糧食多からず。使い遣わして佐川官兵衛陣少糧食多からず、使を遣して佐川陣將に報じ、糧道を開かしむ。時に高田をまもる者もお急を告ぐ。ここにおいて佐川、兵を分ちて朱雀三番士中、進撃の二隊を留めて南方をおさえし、朱雀三番寄合組隊をして本道を守らしめ自ら砲兵隊、別撰組隊、朱雀二番士中隊及び水戸の兵、三百余人を率いて大内を發し、日暮、高田に至る。是より人を四方に出して糧食をあつめ、敵の囲を破つて糧食を納めれしむ。『会津戊辰戦史』

九月十二日

高田ノ新撃隊。主將ノ意ヲモツテ、堺野(境野)守衛ニ受持スヘキ旨ヲ陣將ニノベラレ、堺野村邑長ノ宿ヲ陣營トス。略く見立ノ神社トトナフト。右両所ニ胸壁ヲ築キ守衛ス。敵ハナオ、中田邑ノ後山ノ頂上四、五ヶ所ニ夜ハ篝火ヲ焚テ守ル。『明治日誌』

九月十三日

吉村津右衛門、栗村又市が兵二十人、林信太郎が兵十人、巡邏して宮下村に至る。西兵、小祖山、宮下、安田の三所に託す。東兵これを攻撃して破り、北を追うて四人を死し、一人を傷く。『会津戊辰戦史』
敵、坂井野(境野)ヲ襲フノ聞ヘアリ。進軍スルニ敵来ラズ。諸

村ヲ巡邏シテ高田村ニ帰ル。『会津藩大砲隊戊辰戦記』

九月十四日

敵、宮袋ヲ襲フノ聞ヘアルモ来ラス。空シク高田村ニ戻ル。『会津藩大砲隊戊辰戦記』

九月十五日

高田村、敵、襲来ノ聞ヘアルモ遂ニ来ラス。『会津藩大砲隊戊辰戦記』

九月十六日

敵、永井野村ニ来ルノ聞ヘアリテ出兵ス。永井野ニ至ラサルニ戦争終テ、敵、敗レ退散セシ由ニテ高田村ニ引上ク。略く此日、高橋村ト城山トヲ守ル。『会津大砲隊戊辰戦記』

今日、高田本營ノ命ニヨリ水戸兵藩士諸隊ヲ促シ、胄邑法ノ敵ヲ進ミ撃テ軍利アリ、生捕分捕ナド有シト也。『辰之日記草稿』

永井野村へ 致進撃候ニ付、胃村へ繰込候、水戸藩へ応援ノ儀申合、昼一字頃ヨリ松ヶ岸村マテ進軍。賊兵同所ト永井野村ノ間ニ、兼テ設ケ置候台場ニ、オオヨソ三百余人ニテ固居候様見受候に付略『遊軍隊目録』

九月十七日

永井野村を守る朱雀二番士中隊中隊長頭長谷川勝太郎、いまだ兵の交替せざるに隊兵を率いて陣地を退きたるが、水戸の兵、大いに怒り痛論して止まず。『会津戊辰戦史』
西兵大挙して高田を攻撃せんとするや、佐川接戦の利あらざるを知り、浅羽忠之助をして退却の令を伝へしむ。略く令を水戸の兵に伝ふ。忠之介再び馬をかへして境野村に至り、令を武井柯亭に伝ふ。『会津戊辰戦史』

敵、永井野ニ来テ僅カニ発砲シテ退ク。『会津大砲隊戊辰戦記』

九月十八日

高田、永井野ノ両村ニ当タリヨリニ砲声聞エユ。火災起コルヲ見。衆ト味方ノ敗レヲ疑フ間ニ、小櫃弥市来テ味方ノ敗報ヲ告ケ我隊ハ市野村ニ引上クヘキ命アリ。問道ヨリ市野村ニ至ルニ、退軍ノ味方群集シ雑踏ハナハダシイ。我力隊ノ寄合組一同、二ノ寄合ニ昇席ス。市野峠ヲ出發シテ大内村ニ宿陣ス。二番分隊ハ、市野峠ヲ守リ夜半、三番分隊ニ交代ス。コノ夜寒氣凜冽、寒風肌衣ヲトオシ安眠スルヲ得ス。『会津大砲隊戊辰戦記』

高田町の戊辰戦争 9/18高田が長州藩らに放火される

濃霧、晴明スレハ逆瀬川方ノ西軍、山ヲ超エテ群出シ、一手ハ山麓ヨリ中田法用寺村方へ探ク砲シ、水戸藩ノ手ト砲戦始マル。ナオ一手ハ当陣ヲ目的ニシテ、人員、雲霞ノ如ク、進ミ来タリシカバ、兼テ守備スル邑北ノ社地、ナオ邑西ノ寺石表ヲ楯トシテ、僅カニ四十有人ヲ二手ニ分ケテタレトモ、半ハ、槍隊ナレバ遠敵ヲ防クニ利ナク、タダ手ニ汗汁シテ近寄ルヲ待ツノミ。

自分ハ、小勢ナレドモ、元ヨリ死ヲ極ムル事ナレバ、ウンザリセズ待チ受ケタリシニ、前途ニオビエテ、発砲スレバ、敵ハ驚キ、直チニ散兵、左右へ回り別レシテ対砲スル。ソノ中ニ敵ノ後軍、邑裏ノ経路へ回ルト見エシガ、味方カカル乏士ヲ四、五人ヅツ、カノ裏手ヲ防グベシト分チ、ココヲ限リト手茂ク乱砲スルトアラズモ、敵ハ追々連歩シ、大軍ナレバ事モセズ。略シ陣將佐川(佐川官兵衛)氏ノ前へ出テ、王將ノ言ヲ述レバ、勝軍ノ氣、見エザルニヨリ、一旦大内方へ替へ、引キニスベキヲ告ゲヨトアレバ、略シ諸隊ト共ニ、藤田邑マデ退キシニ、本營(伊佐須美神社)諸隊ハ市野峠ヲ超エテ大内方へ引キ退ク。略シ先ニ福永邑へ隊々屯スベキ命ナリ。略シスデニ、五黄更(四時)ノ頃、一番ヨリ次序ヲ正シ、起キ歩キシテ大内ノ山道ヲ登リ峠ヲ下ラントスル頃、東雲晴朗セリ。『辰之日記草稿』

逆瀬川方面ヨリ、敵ノ大軍山ヲ越テ、押シ寄セスルト、シリゾケ候告ケタリ。朝餉(朝飯)スル暇モ非ス持場へ出兵ス。シカルニ敵ノ一手ハ、山麓ヨリ中田法用寺村ノ方へ廻リ、水戸藩(永井野)ノ手ト、激戦始マリ、ナオ一手ハ我陣ヲ目掛ケ、雲、霞ノ沸クカ如ク進ミ来リシハ、ヨツテ守備スル村北ノ社内、ナオ村西ノ寺内石表ヲ楯トシ、ワズカニ四十有人、二手ニ分チケルニ、半ハ、槍組ナレハ遠的ヲ防ク利ナシ、タタ手ニ汗ヲ握ルノミ。

自分ハ小勢トイエドモ、元ヨリ必至ヲ極ムルコトナレハ、少シモ辟易(ウンザリ)セス。胸壁ニ身ヲ潜メ発砲スレトモ、敵ハ、ラッパト共ニ進ミヨリ、直チニ散兵、左右へ回列シ、村ノ経路ニ回ル。略シ槍ヲ突入セント穂先ヲ揃へ、マサニ突出セントス、隊長、飛来タリ、白羽ヲ降り揚ケ大音ニテ、ヨウヨウ堂々、敵ハ、大軍、死スヘキ場ニアラズ。早々引上ケヨト指揮アレハ、コレヨリ高田へ退カント駆ケ走ル。後口ヨリ、飛ヒ来ル砲丸ハ

雨ノゴトシ。略シ隊長ト共ニ橋爪村ヨリ本郷村へ行キケルニ、観音山ニ萱野太夫ノ引揚ケニナリシト聞キ、武井隊長、軍議ノタメ登山セラル。但シ、昨日、一堰方ニオイテ戦争アリシニ、味方利アラシシテ諸隊ヲヒキイテ萱野太夫、本郷へ引揚ニナリシトソ。ヨツテ我隊モ本郷へ集リタリ。

略シ五更(四時)ノ頃、一番ヨリ次序ヲ正シ、起キ歩キシテ大内ノ山道ヲ登リ、峠ヲ下ラントスル頃、夜ハ明ケタリ。『明治日誌』

四ツ時(夜十時)頃ニモ是之コレ有ベク、高田村破レ佐川殿始大内村へ引揚相成リ候ヨシニ付、同夜、福永村九ツ時(夜十二時)頃ヨリ引上ニ相成、大内峠へ登リ口ニテ夜モ明ケ、行人坂ト申ス処ニテ昼前番兵致シ、昼后、大内峠絶頂へ登リ、番兵致シ居ル候処、夜ニ入り、大内村へ引上、休息致シ居ル候様、申来リ候ニ付、大内村ニテ休息致シ候事『朱雀士中組戦争調書』

同所出起キ、午時(二時)頃、福永村ニ至ル。高田応援ノ手配未タ定ラズ、敵、巳(十時)ニ高田ニ入り放火ス。依ツテ高田出張ノ兵、福永ニ退ク。暁、大内村ニ至ル。『結草録』

九月十八日、高田町を長州藩ら二千人が囲み放火

柳津から佐賀瀬川を経て、中田観音、法用寺を回り、高田を指した新政府軍の長州藩を主力とする薩摩藩、岩国藩。会津藩は、高田の高田城跡を陣に約千人が守備をする。九月十八日、佐川官兵衛、上田学太夫、新選組齋藤一らは、伊佐須美神に陣を移すも、二千人からの敵軍勢に囲まれ、大内宿を目指し市野峠へ退却。北原采女らは、福永から氷玉峠を経て大内宿を目指し退却した。この時も長州藩らは、高田町に火を放ち、町はほぼ全焼となる。その後、町の中央を通る街道は、各戸が一問、セツトバックし、道を広げて、町は再建された。